

課題名	S 状結腸軸捻転における再発率に寄与する因子の検討
承認番号	2022-13 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 消化器内科 氏名 生坂光
研究期間	(西暦) 2022 年 8 月 ~ (西暦) 2022 年 10 月
研究の意義・目的	S 状結腸軸捻転は緊急治療を要する疾患です。明らかな穿孔や腸管壊死がない場合に内視鏡治療の適応となります。内視鏡治療は S 状結腸を直線化する内視鏡捻転整復術が推奨されていますが、実際には整復術を行わずに腸管内を脱気・吸引するだけでも再発がないことも多く経験します。短期的な再発率に関してどのような因子が関与しているか検討することで、内視鏡治療方法の選択に役立てることができます。
研究の方法 (対象期間含む)	2011 年 4 月から 2021 年 9 月までに S 状結腸軸捻転で入院した患者さんのうち内視鏡治療が行われた方を抽出します。S 状結腸軸捻転の診断は X 線、CT、内視鏡での捻転像で行います。 評価項目としては年齢、性別、身長、体重、体表面積、採血データ(尿素窒素 (BUN)、クレアチニン (Cre)、C 反応性蛋白 (CRP)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、乳酸脱水素酵素 (LDH)、クレアチンキナーゼ (CK)、ヘモグロビン (Hb))、バイタルサイン(体温、収縮期血圧、拡張期血圧、脈拍数、経皮的動脈血酸素飽和度)、併存疾患、内視鏡的整復術施行の有無、S 状結腸軸捻転の既往、内視鏡処置に伴う合併症の有無に関して検討した検定を行います。内視鏡治療後 30 日以内の再発した患者群と再発がなかった患者群でどのような違いがあるか検討します。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供される場合はその 方法を含む)	対象症例のカルテから以下のデータを抽出し、検定を行います。データは本研究の目的のみに使用し、個人が特定できない形とします。具体的には、対応表を用いてデータ管理を行い、使用するデータのみでは個人の ID などが分からない状態とします。
利用又は提供する 試料・情報の項目	年齢、性別、身長、体重、体表面積、血液検査所見、体温、収縮期血圧、拡張期血圧、脈拍数、経皮的動脈血酸素飽和度、併存疾患、内視鏡的整復術施行の有無、S 状結腸軸捻転の既往の有無、内視鏡処置に伴う合併症の有無、X 線、CT 画像、内視鏡画像を用いて比較検討を行います。
試料・情報を 利用する者の範囲	消化器内科 生坂 光
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	消化器内科 生坂 光

問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 消化器内科 氏名 生坂光 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101
--------	--